

広報つちうら6月上旬号付録 第二期土浦市 地球温暖化防止行動計画



土浦市地球温暖化防止
シンボルキャラクター
「つーちゃん」

水と緑 人と人の『環』でつくる 低炭素都市を目指して

計画の趣旨

地球温暖化は私たちの生活環境に影響を与える重要な環境問題です。本計画は、世界や我が国の動向を踏まえ温室効果ガスの排出量の削減目標を定めるとともに、排出を抑制する「緩和策」や、気候変動による悪影響に備える「適応策」について盛り込みました。市民、事業者、行政が協働・連携のもと、具体的な施策を継続的に進め「協働型低炭素都市の実現」を目指します。

計画の期間

計画の期間は、令和2年度から12年度までの11年間とし、環境や社会情勢の変化に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。また、本計画は国が掲げる「政府実行計画」と基準年及び目標年を合わせ、整合を図るものとします。

土浦市への地球温暖化の影響

気温の上昇と猛暑日の増加

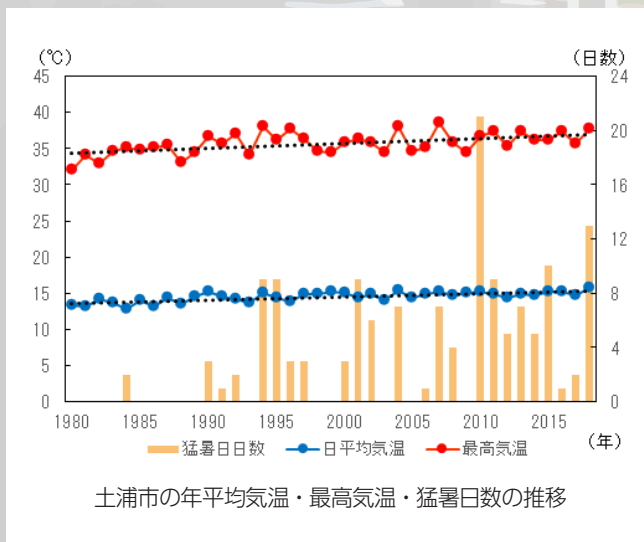
市の平均気温・最高気温は、1980年から2018年の間に約1.0℃上昇しています。また、1日の最高気温が35℃以上となる猛暑日は、1980年代ではない年もありましたが、2000年代では年間20日を超える年も見受けられ、増加傾向にあります。

熱中症の増加

市内の熱中症による救急搬送人数は増加傾向にあり、2019年度は95人となっています。

このまま地球温暖化が進むと…

今後、何も対策をとらずに地球温暖化が進んだ場合、2100年の市の最高気温は約44℃になると予想されており、熱中症などの健康被害の増加やスーパー台風の接近で多大な被害が出ると予想されています。



緩和策 温室効果ガスの排出を抑制する取組(4つのテーマと9つのカテゴリー)

市の地球温暖化防止に向けた長期目標を達成するためには、市民、事業者、行政が一体となり、施策の推進を図ることが必要です。本計画では4つのテーマに分類した「緩和策」の推進が重要と考えます。

緩和策を着実に実行するため、各テーマに対応するリーディングプロジェクト(重点的に取組む項目)を設定し、数値管理が可能なものは数値目標に基づく進行管理のもと、着実な施策の展開を図ります。

1. 最新技術の導入

再生可能エネルギー・エネルギー高度利用技術の導入

太陽光やバイオマスなどの新エネルギー、コージェネレーションやヒートポンプなどのエネルギー高度利用技術の積極的な導入を進め、温室効果ガスの削減を目指します。

2. 意識の変革と実践

エコライフ・エコビジネスの実践

市民の暮らしや事業活動、市役所の事務事業の中で実践できる地球温暖化対策を進めていきます。

環境教育の推進

子どもや地域の住民が参加できる地球温暖化防止をテーマとした出前講座を展開し、普及啓発を強化します。

数値目標

2020～30年度の出前講座受講者数 **延べ13,200人以上** 【基準値:1,182人(2018年度実績)】

環境対応車の導入・エコドライブの実践

各種イベントなどでエコドライブの啓発活動を実施し、温室効果ガス排出量の削減に努めます。

数値目標

2030年度までのエコドライブ宣言者数 **延べ2,400人以上** 【基準値:1,197人(2018年度までの累計)】

ごみの削減・資源化の促進

一人ひとりが資源の有効利用を意識し、ごみの削減から地球温暖化対策を実践していきます。

数値目標

2021年度の1人1日あたりのごみ排出量 **946グラム** 【基準値:1,062グラム(2018年度実績)】

3. 低炭素型のコンパクトなまちづくり

建築物の省エネ化

消費エネルギーの低減を考慮した環境にやさしい建築物の普及を進めていきます。

公共交通機関等の利用

通勤通学や外出時に公共交通機関などの利用に努め、燃料使用による温室効果ガス排出量を削減します。事業者や行政は、公共交通機関を利用した通勤を推進する仕組みづくりを行います。

緑化の推進

グリーンカーテンコンテストと花いっぱい運動コンクールの応募数を数値目標とし、一般家庭や公共施設、事業所の緑化を推進し、緑あふれるまちづくりを目指します。

数値目標

2020年度～30年度のグリーンカーテンコンテスト・花いっぱい運動コンクール応募数 **延べ1,650件以上** 【基準値:141件(2018年度実績)】

4. 協働の環づくり

協働の「環」づくり

市民、事業者、行政が一体となるパートナーシップの仕組みづくりを行います。

数値目標

2020年度～30年度の地球温暖化防止啓発人数 **延べ49,500人以上** 【基準値:4,500人(2018年度実績)】
※出前講座受講者は除く

土浦市の温室効果ガス排出量の削減目標

市では、国が掲げる「政府実行計画」の基準年及び目標年との整合を考慮し、基準年を2013(平成25)年度、目標年を2030(令和12)年度とします。

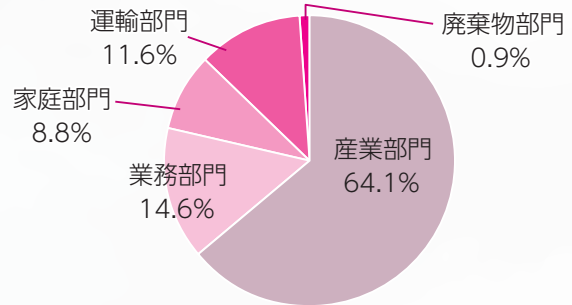
また、部門ごとの削減目標は、排出量の内訳の傾向が茨城県と類似することを鑑みて、茨城県地球温暖化対策実行計画の削減目標に準拠することとします。

土浦市の温室効果ガス排出量の現状

県内市町村の排出量(上位7市町村2016年度)

No	市町村	排出量 (千t-CO ₂)
1	神栖市	4,006
2	日立市	3,597
3	ひたちなか市	3,029
4	土浦市	2,555
5	古河市	2,541
6	つくば市	2,263
7	水戸市	2,198

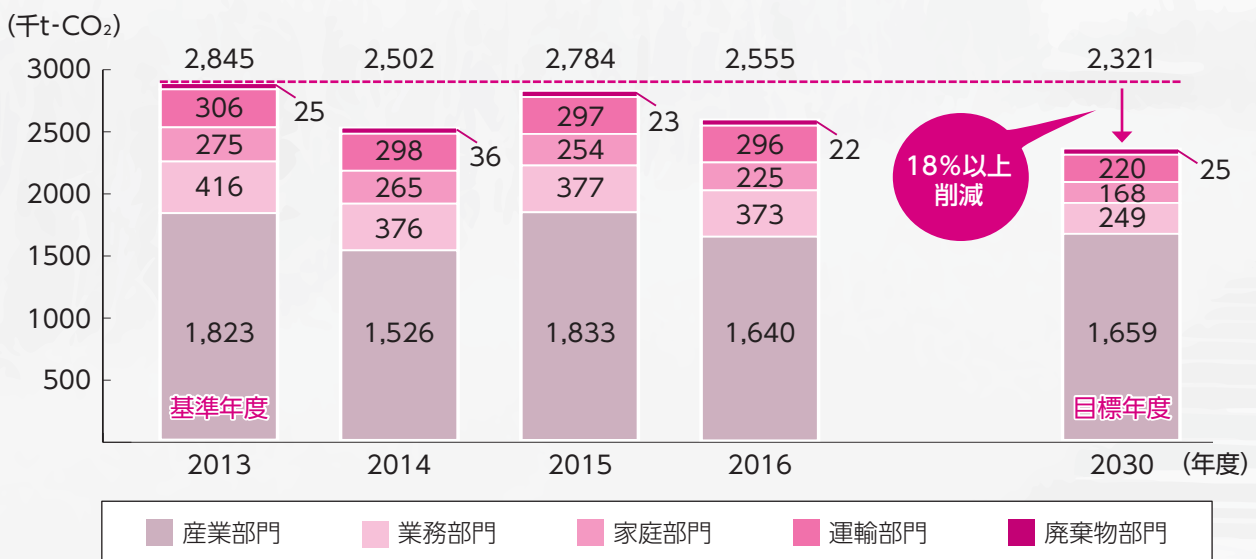
土浦市の総排出量の内訳(2016年度)



土浦市の温室効果ガス排出量の推移と削減目標

部門ごとに削減目標を定め、2030年度までに総排出量を2013年度比で
18%以上削減を目指します。

産業部門 (製造業、建設業・鉱業、農林水産業)	9%削減	※国の目標は6.5%削減
業務部門 (事務所・ビル、商業・サービス業施設)	40%削減	※国の目標と同等
家庭部門	39%削減	※国の目標と同等
運輸部門 (自動車、鉄道)	28%削減	※国の目標と同等
廃棄物部門 (非エネルギー起源)	現状維持	



※排出量は環境省「部門別CO₂排出量の現況推計値」を引用しています。少数の計算の関係上、合計値が一致しない場合があります。

長期的には国が掲げる「2050年までに温室効果ガス排出量80%削減」と、最終到達点である「脱炭素社会」の早期実現に貢献するため継続して取り組んでいきます。

適応策 気候変動による悪影響に備える取組(4つの部門)

健康・市民生活

想定される影響

熱中症の増加、記録的豪雨によるインフラ・ライフラインへの影響。

主な適応策

- グリーンカーテンの実施
- 公共施設などでのクールシェア

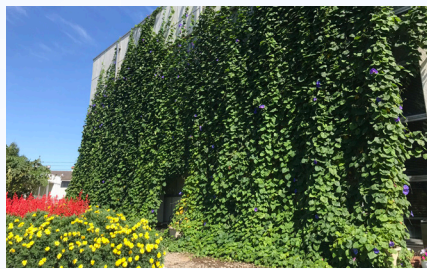
自然生態系

想定される影響

生態系の変化、特定外来種の増加。

主な適応策

- 自然環境調査の実施
- 特定外来種の防除
- 自然観察会などの実施



グリーンカーテン

自然災害・水環境

想定される影響

集中豪雨による浸水や大型台風による風水害の増加、土砂災害による急傾斜地の崩壊。

主な適応策

- ハザードマップによる土砂災害危険箇所の周知
- 浸水想定区域や避難場所の周知

農林水産

想定される影響

農作物や水産物の生育障害、品質低下、収穫量・漁獲量の減少。

主な適応策

- 耐暑性・病害虫抵抗性・耐病性品種の開発
- ハード・ソフト対策による生産基盤の減災

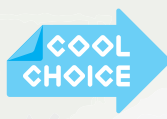


桜川河川敷で行われる水防訓練

私たち一人ひとりにできる取組例

「COOL CHOICE」の実践

日常生活で地球温暖化対策に資する「賢い選択」を実践しましょう。



未来のために、いま選ぼう。

ごみの削減・資源化の促進

ごみになるものはもらわない、ごみを減らす、再利用する、リサイクルするといった「4R」を実践しましょう。

エコドライブの実施

燃費向上や安全運転にもつながります。省エネモードがある場合は活用しましょう。

省エネ支援サービスの活用

家庭エコ診断や中小企業向けの省エネ診断などを積極的に活用しコスト・エネルギー削減に努めましょう。

広報つちうら6月上旬号付録 第二期土浦市地球温暖化防止行動計画

発行/土浦市 編集/市民生活部 環境保全課
〒300-8686 土浦市大和町9番1号 ☎826-1111(内線2380)
※詳しくはホームページでも公開しています。
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page002932.html>



この冊子は図のように広報紙から外して、保管してください。

